

「学ぶ力」	
実態	成果 課題
	<p>◇札幌市の共通指標から本校では「分からないことを聞く」「一緒に考える」「自分の考えを見直す」「振り返りを生かす」「やり遂げようとする気持ち」の項目においては、前向きな回答が80%以上となっており、個別の学習と協働的な学習の両輪で主体的に学ぶことができている。</p> <p>◇札幌市の共通指標から本校では「人に伝える」「進んで発言」「時間の使い方を考えて生活」「自分で計画を立てて勉強する」の割合が他項目に比べて低い。自分の考えや思いを発信したり、自己調整しながら学ぶ力を身に付けようとしたりする力が弱い。</p>
	<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇札幌市の共通指標から「人の役に立ててうれしい」「人の役に立つ人間になりたい」の項目については前向きな回答が90%以上である一方、「自分は必要とされている」の項目が70%程度であり、相互承認の観点ではやや課題がある。本校の教育活動の特長の一つであるふれあい活動を通して自己肯定感を高めることができていると想定されるが、日常の学習でも学ぶ姿勢や変容を価値付け、適切にフィードバックする教師の関わりが必要と考える。</p>
<p>「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力 違いを認め合う姿勢などの学びの基本を土台に、様々なつながりを通して主体的に学習に取り組む力</p>	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて 自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 子どもの「～したい」という思いに着目した授業を構築するため「ずれや多様な意見が生まれる問い」を大切にする。また、子どもが自ら主体的に学びたいと思うような問いを中心にした単元構成を行う。</p> <p>(2) 単元や題材を通して自ら学びを進めたり、他者と協働したりすることで得た達成感や本物の経験がリフレクションを通して各教科の見方・考え方の育成につながるような単元構成や授業の構築を行う。</p> <p>①自治的な学級活動の充実 →よりよい学級にするために、<u>学級の様々な課題を議題にした学級会の実施。</u></p> <p>②委員会、クラブ活動の充実 →本校の重点目標「たのしい」を創造する学校を目指した委員会活動や同好の集まりとして自分たちで活動を創り上げるクラブ活動を目指す。</p> <p>③ふれあい活動の充実 →子ども自身が主体的に考え、楽しく交流しつながりを深められるようなふれあい活動を目指す。</p>
	<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p> <p>◇(2)について、教師の意図的な問いから生まれる学習課題の解決のための手立てとして有効なアプリケーションの活用や、目的に応じて主体的に必要なアプリケーションを選ぶ力を育ていく情報活用能力育成を推進する。</p> <p>◇(2)や②について、端末活用の推進とともに、情報モラル指導の徹底や適切な使用方法についても日常的に指導を継続していく。</p> <p>◇(1)について、生成AIの利活用を進めていく中で、メリットとデメリットを体験的に学ばせることを通して、生成AIは万能ではなく一緒に学習課題を考えるパートナーや相談相手として活用していけるようにする。</p>

<本プログラムの実行に向けて>



